

現場で使える 実務ガイド

個別支援計画の モニタリング実務

ROOTS

児発・放デイの運営ソフト | 株式会社INU
rootshub.jp



モニタリングは、支援の実施状況を次の計画へ返すプロセスです

記録を埋めることが目的ではありません。計画どおりに支援したか、その支援が本人にどう表れたかを確認めます。



「変化なし」で终えず、変化がないと判断した根拠と、現行計画を継続する理由まで残すと、次の支援判断に使える記録になります。

個別支援計画は、少なくとも6月に1回以上見直します

根拠は「児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準」(平成24年厚生労働省令第15号)第27条です。

RULE

少なくとも6月に1回以上

計画の見直し判断に必要なモニタリングを、前回から6か月を超えないよう管理します。

START

実施日を起点に管理

実施後すぐに次回期限を設定し、1～2か月前から面談等の日程を調整します。

EARLY

変化があれば期限を待たない

本人・家庭・学校等の状況が変わったときは、6か月を待たずに確認し見直します。

電話・オンライン等を含む実施方法の可否や条件は、指定権者の運用を確認します。送迎時の立ち話や連絡帳だけで正式なモニタリングを完結させません。

「目標への到達度」と「新しい課題」を、具体的な事実から見ます

評価語だけを先に決めず、日々の記録、本人の様子、本人・保護者の言葉をそろえて判断します。

目標への到達度

- 目標で定めた行動・頻度・場面に照らす
- 達成／一部達成／未達を、根拠行動とセットで記録する
- 支援方法が本人に合っていたかも振り返る
- 家庭・学校等でも変化が見られるか確認する

新しい課題・ニーズ

- 発達、健康、生活、行動の新たな変化
- 進級・就学・家族状況など環境の変化
- 本人・保護者の意向や困りごとの変化
- 新たに必要となった連携・配慮・支援

未達は失敗ではありません。原因と次の手立てを考えるための情報です。達成ばかりに整えず、観察できた事実をそのまま残します。

記録は「事実 → 評価 → 意向 → 方針」の順で書きます

誰が読んでも判断の流れを追えるように、抽象語を具体的な行動・回数・場面へ置き換えます。

項目	書く内容	記載例
事実	実施日・方法・参加者と、観察した行動	声かけでの排尿は通所中10回中8回成功。自発的な要求は週2～3回
評価	目標に照らした達成度と、その理由	一部達成。声かけ時は安定したが、自発的な要求は定着途中
意向	本人・保護者の具体的な言葉や要望	保護者「家庭でも同じ声かけを試したい」
方針	継続・修正・新設と、次に確認すること	目標を継続し、家庭と排尿パターンを共有して次回確認

「順調」「変化なし」「様子を見る」だけでは根拠が残りません。実施方法が電話・オンラインの場合は、その方法と事情も記録します。

結果を共有し、計画を見直すときは説明と同意まで完了させます

モニタリング結果の共有と、見直した個別支援計画への同意は別の手続として記録します。

1 共有する

目標ごとの到達度と根拠、事業所が捉えた変化を分かりやすく伝えます。

2 意向を聴く

本人・保護者の実感、家庭での様子、困りごと、今後の希望を確認します。

3 判断をそろえる

目標・支援内容を継続するか、修正するか、新たな課題を加えるかを話し合います。

4 同意を残す

計画を見直した場合は内容を説明し、同意日・署名等と交付の記録を残します。

保護者の言葉は要約しすぎず、判断の根拠になる表現を具体的に残します。意見が異なる場合も、違いと調整経過を記録します。

モニタリングの結論を、次期計画の目標・支援内容・評価指標へ移します

記録を保存して終わらせず、支援チームが次の行動を選べる形に変換します。

モニタリングの結論	計画への反映	次に確認すること
達成	次の段階へ目標を更新、または別場面への般化を設定	どの場面・相手でもできるか
一部達成	目標を継続し、支援方法・環境・評価指標を調整	何が成功条件になっているか
未達	原因を整理し、目標の難度や手立てを見直す	本人の負担、前提スキル、支援方法
新しい課題	優先度を判断し、新目標・配慮・連携を追加	本人・家族への影響と緊急性

見直した内容は、担当者だけに留めず、支援に関わる職員へ共有します。次回の支援記録で何を観察するかまで具体化すると、次のモニタリングにつながります。

期限・事実・意向・見直しを、一つの流れで管理する

6か月の期限を守り、具体的な事実から到達度と新しい課題を評価する。本人・保護者と結果を共有し、必要な見直しを次期計画と日々の支援へ確実に反映します。

期限

実施日を起点に次回期限を設定し、早めに日程を調整する

記録

事実 → 評価 → 意向 → 方針の順で、判断根拠を残す

連動

共有・同意・計画更新・職員周知までを完了させる

根拠: ROOTS「児発・放デイのモニタリング完全ガイド」「モニタリングは電話で可能か 児発・放デイ | 実施方法と記録」、docs/rulebook/README.md。実施方法・様式等は指定権者の現行運用を最終確認してください。株式会社INU (ROOTS運営) は行政機関ではありません。